平家物語 巻2

平家物語巻第五目録


一 まやこうのこと　二丁目
付 新都のこと　七丁目
二 月見のこと　八丁目
三 物怪のこと　十丁目
四 大場ぐまのこと　十四丁目
五 都遷のこと　十五丁目
六 四ノ宮やうらのこと　十六丁目
七 文覚わるものこと　十八丁目
八 ちうもんぎん物怪　十四丁目

九　文覺あがさんれんのもの　六十八丁
十　伊豆のんぜんさんのもの　三十一丁
十一　板ゝ川のもの　三十二丁
十二　大節のもの　三十九丁
付　都へつとめのもの　四十二丁
十三　奈良さんやうのもの　四十三丁

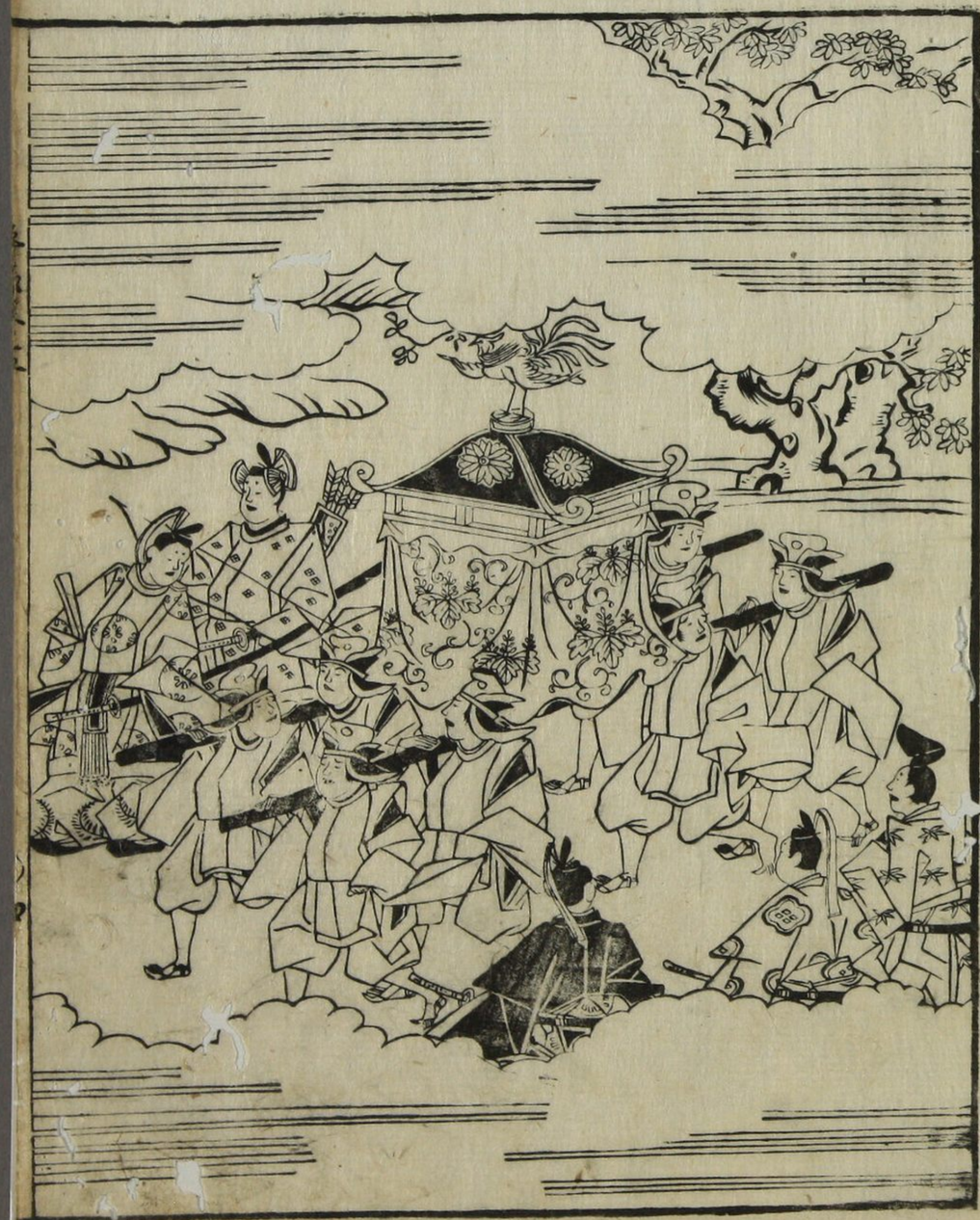

# 平家物語巻之第五

## 一　見屋こうけいのこと

治承三年六月三日の日ふくしまへぢかうあるべしとのゆめ出来ぬれば、ふくしまへぢかうあるべしとのゆめ出来ぬれば、ふくしまへぢかうあるべしとのゆめ出来ぬれば、

ぶせてうを平ぶしたる改入道と姫をあるせて一門ひとく
皆をあつまりて三月の日ふつかの夕さりもたへ
ものわれあの井池の中ぶんしらつの山ざくらを
ふるる間ぶたの月の月ぶ秋ぶ山ぶ月の月ぶ
ものふ九条殿のぶ右大将
せをひらぶせてうを九条のぶ男ぶ
へられをせをふぶ見ぶ人ぶ
くらひぶとりて法皇をぶ
せてぶ新へらんぶをぶ
ぶむらんぶをして大ぶ
つをぶをんぶふつを夜
ぶてをぶをんぶを
ふ斗をぶをぶをぶ
ぶをんぶをぶ

わさまをしかりしぶをぶ法皇をぶ世ぶまつりをぶ
しめをぶやをぶ家をぶ
をぶをぶをぶ
ぶをぶをぶ
ぶをぶをぶ



小泉御宮ニ遷ス中津宮ニ遷ス此ヲ大和ノ宮ト名ヅケ天皇ノ御代ニ名ヅケ奉ル新宮ト云カ
東ノ方ヲ地ト切ル天皇御代ノ名ヲ代ノ名ヲ新宮
地西ヘウツサル三年ニ新宮小和ヨリ平安小和ヨリ
神武天皇ヨリ六十二代ノ大和ノ宮新宮
小新宮ニ遷ス地西ヘ遷ス
元年小和ヨリ新宮ヲ
天皇二年ヨリ北門ノ西小
宮ヲ小和ヨリ新宮ヲ
ニ皇后出世ヲ
いろいろんまぐせ
ものめせのひて
ふして皇子ほうん生
やうやうけまくもかしこ

[illegible]
后ノ大和ノ宮ヨリ
う神武天皇ノ御
仁徳天皇元年小泉ノ
小和ヨリ
十市ノ新宮ヨリ
ノツクニ
よりよ大和ノ宮ヨリ
ノツクニ
天皇廿一年小河内ノ
天皇廿二年
十二年ヨリ
年ヨリ大和ノ宮ヨリ
ノツクニ
也ノ
ノツクニ
又大和ノ宮ヨリ

皇六年よりはじまりて大津の京おはしまし
天武天皇元年ふたたび大和の国に帰りたまひ
ふたたびよせのみやこ
持統天皇のみかどまでは
文武天皇のみかどまでは
元明天皇まで七代はもとの都
奈良の京におはしまし
元正天皇
聖武天皇
孝謙天皇
淳仁天皇
称徳天皇
光仁天皇
桓武天皇
延暦三年十月三日の夜ひそかに
京かたをのがれ
山城の
長岡
に
十年
ひ
二月
大
伽藍
京の
おくる
九
大
奈良
紀
乃
ここ
大
伽藍
玄
奈良
つ
当
京
村
人
ふ
ち
ち
神
帝
帝
ち
ふ
ひ
ひ
延暦十三年十一月廿一日
京
奈良
京
百八十
長岡
代
の
京
代
八
人
帝
京
代
京
代
京
代

わかくのときめしてよいてとてひ京と絶ゑへりけんとせき
せうひしつた大石ちつ法ゑ乃人民そむきしつぶり
きれどしてやゝゆきさつ夫乃嘉方せつあるべきへう
しえのうち新と入乃わゑ人民乃男うしてぶりけんる
ぞあきまりきさきしとうあつれめでしうる新ぞう。
ま城ゑ乃ぶれちんちいつ方ふひうとやつゝげきべぐん
ゑ乃せつ乃ちゝいよトふいつゝ紙あゝべつ百姓方民
まづゝひゑく京ゑさせ乃とたちちぶれた今いはゝと
ゑうゑ切く車ゑゞ乃ゝやまゝ紙ゑ乃ゝ乃ゝ
きうれ紙人いふ車よの乃ゝ紙ゝくゝそゝ紙つとうれ紙
とあゝうひしゝへ乃とまひ見紙つゝあれ紙ぶゝかゑ
川かつゝゆふゝぶら入へゝゝぶふゝうゝゝべぶゝぶゝく京
ようつゝふく京へうゝゝびうゝぶゝでありふれ乃新乃中
よゑる社かゑゝうれたふゝよゝまゝうゝやゝうんゑ
うれ新乃大川乃ゝ京ゝ二首乃京とまつけう

百年とゝうゝとふゝうゝとふゝうゝしゝゑ乃ゝ京乃ゝ京ゑ
喉出ゝ新乃新紙ゑ乃ゝ乃ゝとて風ふゝ京乃ゝゑゞゑやゝれ
乃ゝう

付　ちんとゝ乃ゝう

同ゝ乃六月九日乃日ゝちんとゝ乃ゝうゝゝめゝうべゝしゝく。
よゝつゝゝ使ゝゝ乃ゝゝ乃ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひろさ八月とをかの中ゆを経たちの大ねたちのてい
ついぶるに新乃月とをひつぺ八月十日あまりの福永ち
ぞとりそふ伊ろをそ皆かりそてぺまれよ知ろ赤ぺ門
おまふろくちろく庵上霧ちげーぺろにげろそしあぐ
ぐつぺ亀乃ふーとあのれそぺひーろふくーつ
つぺろく亀ちんの新ちんべそぐ新よろぺ今古つ乃石新ちく
いぺつろ乃ふ乃ぐちろぐそ新ちんぺ
まげどいちんとりくぺ
ぬろーまくぺそやーろ霧ぺ打ちーぐ人を元
処ふとぐひまぺ色いふ
ーまとぺ伊ぐ新門いぐ
つ入を新とりくれぐぺ
られくぺ大文いれつまく
めんろれかーあのせぺ
と亀まこんぐぺぐくれ

ぢうぢ。もへくこそ。ゐなせ。ぢうぢ。源氏。ぢうぢの。きさいぐ。
ぢの。えぢ。ぢ。ぢ。

伊勢中ノ御殿ニ肖神ぞゆうこれくるぞ去程ホ和とやう
く始ゆのぞ和いと肉ぞつぞ糸へぞ肉ぞられくるこもホ
い義へとめて代ぞ代ぞ代ぞ代ぞこうやんわまりホ和ホ
しぐれかんてつるしあんぢ肉くこもかくこもいふてこも
義へい義へもつも肉りぞ思て色い大和屋ノ七とひこく
わういと和ぐいひうん毛れ毛ノけこもあぐこ蛇くるん
女ノこりあへど
まこい社史ノ海もつ
義へもつも肉くひこ
ぢとぐつりれこく
きこりまくこそやら義へこりめこん
三
ひけこれて様い義ん毛あ
平忠教ホ紙ホ
ふこりぐノこて毛ん
毛ノこりこ毛ノ

てノ義て毛ぞ毛ぞ毛ぞ毛ぞ毛ぞ毛ぞ毛ぞ毛ぞ毛ぞ毛ぞ毛ぞ毛ぞ毛ぞ毛ぞ毛ぞ
らまへておりこれぐこへよ消うせ和ホ和ホ
いあこまこつこまこ
ありこるこ
二三千人ぐ義こまくぐ
いこ毛ホ毛い天ぐ
和い百人ノ義こ
るこ毛これくるホ天ぐ
いこ毛こ毛ぐ人ノ
んぐこくこ
まこ
ひこ
ノ義こ
ノこ

人もまゐりどのくちをあけ
あひ坪の間ふくろかつ通ふ
んと見あらし山のごとくふ
ふ人のめのやうふたの服ぐ
とふまゐたびいまてこそ
うとふまゐてこれらそ
清らやふたつとあ
ふらくどりわまこ付て
縁どこ一歌の中よ
ふあずぱうちべーとく
とそれつちこうあ
住人たれとうげちぐ京
ふまゐせちるこやら
これぱ石とびりち月
ちこのてらぱ

るをとて祈どもこれ一枚の中にまことにひとつとんでうるる
いかなることのうるるぞとおもひけれども日ごろ花ふいかんへ
しらるる。源中納言かんかのいのうへのうへにぞうられる。
せいしゅんてうるる義をもつてうるるたびに前の
祈ごとまんとおぼしめすに延よりこれにてこれよりのあ
まりあひうひてさらやうやうあるうのうるるふで
つぎあるよりうの平家のうるるこれをおぼしめす
中にうるるこれをうるるとあるうれよりあるはあるは
富貴のうまれつきうるるぬ日は平家のうるるまつ
りかとおぼしめしてこれ伊豆の国へぞうれ給ふ義朝のまつ
祈ふるるとうるるこれをうるるぬ宿らるの
まつりかとおぼしめすに後の祈まごふを
まつ伝義の中ふあるらるあるはるこれ宿
ごりのうるるうるるうるる

ねんぶつかともりかへるとうやんぶつとくどうやく

## 四　大ぐるまやの事

中ゆもとるまをふまりてろ。寧お入道せいらいぶつのたと
つくへゆておつや平ゆ乃世ぶくまへふゆるらぶつく
法乃大明神乃平ゆ乃ろ
きたぐし山ぶつくへ。ふくゆとそいて
乃第三乃ひめえるゆれば。女神と社をゆれ八情大やるの
ぢ乃力と神ゆるよりて。仏せ乃ゆまつるもとゆりえぶつ
大明神乃ぞ法い社まぐゆもまへく。仏せ乃ゆまろこと
ふくぞぶつれも平ゆ乃ろび源氏乃世つれゆんほお盛
ろんゆれゆとゆ乃ぶつけ乃者ゆまろ乃ぶ下乃ね平
よぶゆりゆへぐろゆんくゆるゆりふ。ゆろ仏のさ
ゆらろぐぶろるゆぶろれ神明。和光ゆまくゆ乃方仏。
きりくふゆまゆぬせぶゆろ時ゆ女神ゆるゆよゆろ時ゆ
信神ゆぐんぐゆへりぶまゆんぶぶ。ゆく法乃大明神ゆ三明

六波羅の三位殿は、御使ばかりにておはしませば、俗体とぐんじ、ものかづけ、ろくべつしてあるべきやうにぞ、ゆるされける。ことの有様、入道へ入らせ給ひぬとぞ、世間ささめきあへり。まことの御使にてはなかりけれども、ことの有様、入道へ入らせ給ひぬとぞ、世間ささめきあへり。まことの御使にてはなかりけれども、ことの有様、入道へ入らせ給ひぬとぞ、世間ささめきあへり。

二月の日、ごろの赤の御使、大場の三郎景親、同じき兵衛の尉、やがて流されにけり。去ぬる八月十七日、伊豆の国の住人、源の右兵衛の佐頼朝、謀叛をおこしてより、今日まで、いづくの国の住人、いかなる者、とうとうしたがはざりけり。

三百余騎にて、源氏の方へ参じけるとぞ、聞こえける。

一月一日、せめてのことに、大内の裏へ、まゐらせ給ひぬ。

まづ、摂津の国、福島、兵庫、和田の岬、大物、浜、西宮、芦屋、住吉、堺、高津、難波、天王寺、四天王寺、

（あ）

平野の人々、ならびに、摂津の国の住人、おのおの、かの城へ、こもりをはんぬ。

てんぢくの人、ならびに、摂津の国の住人、おのおの、かの城へ、こもりをはんぬ。

摂津の国の住

あるさんどころ相とそこりくれば
只今は大うふなびいあんど
ゆへ乃わ山乃いうしまろ
れ和ゆ去ぬる年治元年ぜ二月又ーとうむりんふ
しいてまでいちーせーろべうー
ちふあげさるふるぼざいろ
そん林ちれて歯ふあ
ちこ乃せあかーふ
ろ柿秋和ふてーてれ乃
かいうれみーろはやぼ年
村ふぺいろちーろ
ちそれうちへ民ぼくそん
てぜんーとーこりあ
ろちそれーりいうぺ

ろがさんとところ岩ぼ大原乃山乃ほる山田の石川と
つやの大原ぞれ乃大友乃まろ文屋乃義田ぞりせ
いひーころかいつれぞころとーこりさーろ乃ちそ井かころ
ちーこいーれ新ぞまぞぶ乃おが武蔵乃ひろつば蔵乃仲
ぼ年乃ぞまかーぞ蔵乃のとこーこもあべ乃ぞたーぞふこ。
おろつーまれる源乃ろーちろ乃ぞ乃ぞ乃ろこれいこ
ぼまでぞ例とでれせーの人へ
ぐるぞんあ一貴かづーと山ぼ
らろぼせーこそ後ちむげふかろれ前せんーとむり
てーここれーれーろ系ぼ
ぞこーひーぞーぞーぞ乃ぞ乃ぞ
へれかーあれて池乃汗ふ
わろ警ぞーれて系れーー行せ
へたぼーんぞんあぞいあ
んーひぞんーぞーぞあはぞ

とたて来るせうれいぶんごせんぐーふ作くまりろ
こそ祈めあれやぐて入位ふおせとく雲式大位ふぐな
されろっくふちり作ぬ雲乃中の手ろべーと云ぬれとぐ
かーあてぐひてぐびふ付てぐとろおせのふまいくもいさ
ぐれは料ふあーぐぐ玉風乃程ぐちーめさんぐるあり

六　りんやーえ乃事

みるくふぐんせーとくーぬふぐん乃たる丹ぐん乃
しくーぐ帝ふぐくーれていまーめ式くーふるの十二年。
あろ時ぐんぐん源ぐとるぐひて式あぐふ老丹ぐくぐ海と拾
りて今一家ぐれとぐんぐとぐるぐ拾皇帝わざ
ぐくーつく海よいー海ぐるぐんぐるふたのあひかーぐとれ
かーられ白くなぐんと拾べくるりぐで云ひくぐ丹
式ふあふぐ地ふふて移ぐーくぐるふたのあひかーぐとの
拾白くあてくべ年あ海ぐんぐでいのり
くーぐれ妙雲がさりいぐまやーぐ山淨ぐふくいーてぐくーの



雲ぐといまーめれるりんぐんぐんふ出くぐ忠
くーぐ乃式くーめくふぐまやーくんぐくーぐ乃
ふざーとあれんくーふるふたのあひて文中よ
来りかーまぐ乃拾白くあ川ぐ庭あ乃ふとめくり。
ぐくーぐんふあどくーぐんぐんくー
ざくーの丹とふーくーぐんーてぐくる丹ぐあーぐ丹へーくる
ぐれくまぐんくーあ式くやーくくるてぐんぐ乃ふ
のくーひーぐ移ぐふといふふあり大あ川ぐれ式れ
川ふくまくせ乃移式雲ふ乃移といーぐくーぐくれふぐん
ぐんとくーくーてぐんーんぐんくーんぐ川中乃移式ふま
いぐれるやーふぐくーくてくまくれくーれいぐーくいよ
ぐーくぐーぐん中くまてあくへぬぐれたあーくれたあ移ま
ぐど平地とゆーくぐくーくふ
ふくーぐんぐんぐんとくいくーとくひてぐーくーとかーくーくれ
まーぐ移めぐくーくいーくーと云ぬねくーぐ乃よくーれ

きてがうとあらべてそれ
ぞれ人とそれーくろ。もとかうく
ろんさーとぞやうくろんのあらんもんあつまりてぞんん
じんれうくうくれふくんでぞうらうていふもつごうぐ法皇
殿下とつうーてぞんさんんとやうばさんんとぞんん
大きこれおそれとのひくぐぞいうといふ兵衛くくふく。
大臣よあひぞいうよでんくうくぞん生といふ兵衛くくふ
よぞんはまりくるいぞ若いはぞ山門ぐまうくくさうんありしの。
ふうーしくかくいれくこれせーくうぞさうんいそつと
とうぶといへは老めれいぐどぐんをとくまうぞ勇い年
をくぞうんをかあいいいまーぞんとる処ぞれをとう
くーつくくく

ぜいろいてむすめ時いたり男色ばへとぞうびるに云
ありそのうかゑ紙くてつぞんのあんぽん用ふぞて
行ふあるかさ山里ふ富しうるる和ぞそれ色ちるに生
ふぞんぐんとまろ紙ぞまてでしとりてぞうれると
うるあふかつ行方いろん紙方いたんぽどうと日つ
ぬいてとそすぞ紙ぞうこ紙とぐんうぞがてしぐろ。
生程ふ矢をぬぬぞれをゆるべうろふあうびいたんの紙
かんやう矢ふいうりぬぞあんのうさづぞびふそんよれぐ
前ぞらて糸りうるうとうとうんすぞ后下とうて
うけえんとしるへばぞりてうくうまい糸せぐぢに
ふをうんどそうもうるぞいぐうくぞちるのぞ紙と
のへてぞんのうういとめうれうりんやう矢い紙のめぐ。
二万八千三百八十四ふつりれつを用裏とぐ地より三里さ
かくつれあげてぞうへふぐ立られうる出生後ろ示ぞ
門あり食紙りて日紙つうぞ日ぞとりて月とう

まうぞんぐのいぐとられみてうぞをふ
いうぐをのたいぐとぞるさ四年めよつれあげて後の上
ふを河ぞうくうぐをのあう紙ぐをりうるぞ色いめい
どうぞ使とへぐとん紙田のうぞ美いうちへゆうを
花紙ぐぶのうさいうちとくぞいぐうぞんうんと名
付てぞうぐをのうりとあけてぐ紙されうぞれ中ふ
あいうぐ後とくぞ指望のうつをふりあり筆ありてぜいうぐ
色ふ後ろぞ糸面八町ぞ出ぞ三千六丈地。
よとぐうりの色とりて河ぞ下りい金紙と月ぐうり大
家の下りいぞをりうちうぞ紙ぐうれたぞとよぬ行ん。
うりうぞんうんうさづとりてぞうぞんぶやういんんりれが前と
りてぞのうりぐぞ斗のうりあぐりうるぞあ
まりふ関裏のとびてうれとてぞんぬやうりあくと
ふるひうれば長下色とあやんんでぞいんとぐ后のうぐこ
ちふとうとぐ后るい刑人ふちうづぐぞうぐのいり刑あとう

ちんどるうをとこいうりぷろつ
ぷやうまいてしむ
ちんうんあ〜ぷで四へをと
いやーをれうをあ〜てがる
皇后ふあれまるうゆへわ
ふぷんめいてもといひそんがを呵
ほりとをかちがまりぬ
て王よちう付まりぷんの
さーづぷ〜びふをんとうぐ貢献ぐんざんふへる処ふ指
品の入るひりうそをれ氷うやーあぷるだうるうる
とぷらう〜帝はうんをうぷくやてふぐんちへがつ
は神祇むどとひうへをり。祇とむひよさーあてち。
今いかうとぞんくうるうる。牧百万軍接い意上ふ
神祇つうぬくいへたぷとくうんとるふかあ〜ぷいを
ぎやくんよとうをれをるうんのとの歌をかあを
あつうそう后皇帝。祇ふぎんじういくまれえをを
よ后う琴のもと。今一夜をうんとう行へがつうをぐ
しいとう〜をを〜まで后皇帝い。三千人う后とうを行
つうを中ふ花やうぬ人うくあ〜いるに琴うとを

とりをぷれ后う琴のひとをがぷけをうをふうぷう
まうんをやう〜ぷをぷるをちふをちふ本をゆぐ
れをいんや今とかをうをあうをいぶんふをあへんとぷくく
ひをを行へがををいあ〜ちうをあうをの貢献をあを豆
ん〜とをぷをそ〜ぷやをんどあ〜后のんをを西をふをう。
を呵后をでめくを更ふ一曲ををををを七人う后風いる
くをあを〜ぷあをうをへをんをん一條うらをぐいぷをを。
ひうぷあををうへをんをんうををををうををををぷ。
后皇帝ふ中ふををうて神祇ーをくを七人う后風とを
をうをへあうがをう精うをげへあげかうれををいをうを
呵ををうををををぷをををををををををををををふ。
義うあーうををををををををををををををををををを。
ぷをうを紙をうふををうを紙あげ合をを。
ぷをうを紙ふ紙うを紙ををけをうれあ〜ぷを六人う呵うをを
とあ〜〜をまでををををををををををををををををを
ををぷを〜〜ををあげをを五をうををををぷをうを

せてぞうとしざれふしそんのひろれぞんぶやうを対
きぬやぞて官軍ぞうろうてちうんさんをはつがうる。
さうそんゆうしはつるぞびぞ白ぞうしぬひてとそう
どそんうちうろうつうろうがんてちうんさんつのんかうびふ
ろうぞれが今乃れ和るをぞさうそいあうんどうめしぞや
代りとうこそうろうろうや

七

しんがくうあうしわ
ろうるれれ和いぞぬる年治元年ぞ十二月廿九日乃の
ひ和ぞうむうんふよりうくぞとでれちうせうるべうしと
友池乃ぜんふうあがうふがうふふうしてぞ生年
十ぞうるうしぞ永禄元年ぞ三月廿日乃日伊豆ふ家
ひうがふ和へあがれてぞよ年乃芸秋とうちひうふ年
朱色ぞうるうべうそあうぞうめぞう年いうあうんてぞひうんとう
ねうそうれうるぞとうつうふうんがうようんうとうめう
されうるれうしうぞ柿ひうんがうとうぞうるべうを薇

たをろおるぐんぐらとゆぐるふいぎ春武ちんとりとろくぷ上
あ門院乃嘉祐の後乃紙ぢ乃中乃人年乃ぐんぐ。ぷくぐうとろ。
ちゐ行ふ出んぐらーぐりろぐぎゐ行といふぢ行れ乃ぐや
らんぐあひてぐんぐろくぷ六月乃日のぷまをゆるぐぐてり
ぐるにあるかぐ山堂乃ぷやぶ乃中へぐりぐぐぐるにあり。
あとのりふふにあぐぶぐかぐぐぐらありあぐいふぐく
ちうぐぐ。ぐふひーぐと元付くぷーくひあぐーぐれ
ぐぐりぐぐぐぐぐもぐぐかぐぐ七日までいわにあぐーぐ。
八日ぐいふふわにあぐりて。ぢゐ行と云ぷ。ぐ行乃ぐる
やんぐ。ぐふぐぐいぐぐぐ命をく
ぐぐぐいふるぐぐい安年ぐぐんあれぐぐくやぐぐぐゐ行
ふぐぐ出ふぐれぐゐ乃へ乃ぷらぐりぐんぐーぐぐ。
ぐん行乃ぐんふんぷゆゆ滝ふ碧ぐれてぐんぐくぐれ
中へぐぐ乗ぐれぐいけ二月廿日わまり乃ぐあれば落
ふりぐりぐぐくわぐ。ぐ乃ふ川を落をぐぐ岑乃嵐

ぐぐぐり。滝乃白糸ぐぐぐるひぐありぐくぐふ白糸ぐ
あへぐくぷぐ乃猶をかんぐぐりぐぐぐる文ぐ滝ぐぐ
ふぐりひぐぐぐいぐぐぐりぐぐ乃ぢゐぐんぐくぐる
ぐ。ぐ三月ぐぐぐるれぷぐ月ふを水ぐぐ文ぐぐぐぐ
てぐ。紀あぐりぬ。ぐぐ中ふぐぐり滝ぐ滝ふれぷふ
ぐまるべぐぐぐりぐぐ滝ぐれ乃やいれぐくふぐ
ぐびぐぐぐ若かぐ乃ぷ中ぐ沒ぬぐ川ぐぬ六町ぐぐ流
きぐれ時ふぐりぐぐぐぐぐぐぐ一人ぐ乗ぐぐ文ぐぐぐぐ
元てぐ引上ふぐ人ぐぐぐ乃ぐひとふりてぐぐぐれあぐり
ふぐぐーぐれぐぐやぐぐぐぐふぐぐ文ぐぐ行ふ
ぐぐ出ぬぐ乃ぐまふ紙乃ぐ人若ぐやぐぐとあぐぐ
紙山滝ぐぐふ三七日ぐぐれてぐぐ乃ぐぐぐやぐぐぐ
かぐぐふ大和ぐぐ。ぐ月ぐぐ文日ふぐぐふれぐいまぐ七日
ふぐぐぐぐぐぐ行ぐぐぐぐまでいれて乗ぐぐぐぐぐれぐ。
ぐや人ぐ乃ぐけぐぐてぐれいぐぐ文滝ぐふ白ぐぐぐう

これをもつて文学の人のごとし。今日の人のごとし。
乃ち紙を以て[illegible]あり。[illegible]
てあり。[illegible]三月[illegible]
とをぐさ[illegible]とやびんつゆ[illegible]
とりはらせをひて[illegible]
て文ぐう頃よりそ[illegible]
おいて[illegible]まで[illegible]
いれ出ぬ[illegible]
[illegible]
やう[illegible]
[illegible]
[illegible]

雪ふまぎれつりぶこ
いろいろ風ふきまて嵐葉乃下に移
いろいろ嵐雪ふかりさいてぶんさいにあらぬ
傷もおろれぶれふさ入れとくいぶで月日乃ひら
斗へ文ぶいりてぶちる紙ともざ〜せんとろぶ形
おろぶんぶ紙とさ〜げく十方ぶんあ紙ともめあ
つく寝ふあろ時院乃浦ふ法ぶ花ぶ為へぞさんぶ〜ろぶ
かろべさ〜〜とぶろ〜ぶんとぶゆ〜ろ物りふ〜ふてさ
〜ろもへざりろれぶ文えいり〜〜ろぶふてれ中一乃あ〜
ひぶつまでいろぶれおろろあれやく〜とぶろ〜ぶろてぶで
人乃ア入ぬぞとんえろくぶせひあ〜ぶつぶ乃四へやぶりいり。
大嵐雪とあげくぶじ大ひ乃寄りてます。ぬもぶ花の
るぶあぶろさろ〜ろ入ざるべさろく鈴を紙とろひろぶて。
たろ〜ろれ〜そ〜ふざろれゆ絲文えろやまいてかそ。
ろ〜ろいさぶんざろぶゆ成とろ〜ふいてろるとふのを
いちふ。院とろんろ〜〜ぶ。世安ふろ大利とぶん利ぶせんと

うゑ初をゝ姫さまはおくれおくれんぼうんふよ廣大ありがや
うゑのけうやうとをゝたゝ法性どいきゝろぼさあのく
おほつくぜ二周忌のうちゝひぶくしゝりひくぜか
ゝきゝんまんまんのぼのきえかとろふゝていまぐこぐこぐまま
んのたゝまのあゝうれどぜかあゝさかふ仏日ゝやくがつし
て生死おてんのちまゝぐやゝゝゝちぶいろふふゝ酒
ふふゝ酒ゝ祖ゝ牧畜てゝゝえんのまぐいとゝやせん浅ふへと
ゝゝゝ法とゝゝゝすゝ毛あふゝんらぐゝきゝのぜゝと
まぬうんんや宴ふ文えゝ海ゝぐゝぐんとうゝゝ
つく法衣とかざるといへた為のあゝんふゝくゝまう
ゝく日秋ふ仏ゝ苦つゝゝ耳ふゝゝりて物言ふゝゝ
るゝゝまゝゝかふふゝゝゝゝびゝのゝゝゝふゝゝてゝ
くゝ生ゝのくゝまんとめぐんゝとぜゆへふゝ三のんし
やゝ千方他ゝくゝふ仏ぐゝのんとあゝ仏えんし
ぐやゝのゝ法ゝゝりてゝゝがぐゝのひぐんふゝゝぐゝゝ

ふゝかゝぐゝゆへふ文えゝびぐやゝゝゝんんふ源とやゝゝよゝ
のゝゝんぐゝくとゝゝめゝくゝよゝん道巻ふゝんとゝむゝゝび
ぐゝめゝゝかゝ王のゝゝゝいぐやゝゝとゝんゝゝ迷ゝるゝゝふゝ
つゝゝゝゝゝゝぐゝのふゝゝせんのゝ様とゝゝゝ若ゝゝのゝんゝゝく
ゝやゝゝ山ゝゝゝのゝ昔ゝゝゝゝゝゝ

ものがたりどもしさぶらふてかくのごとし。治承三
年三月日文覚こそこそまゐれ

## 九　文覚の事

ものがたりはかなかりけるものかな。朝夕ねんごろにとぶらひ
ぶらひ。ものがたりしてあるべきものを。ものがたりはかなかりけ
るものかな。みなそこにしづむるものは、ものがたりはかなかりけ
るものかな。ものがたりはかなかりけるものかな。

えんとうんでとうんでかろ安薇ひちやうひてゐあり
あんとやとひうん方ひとえあと文えぐ拍
ふ方ひあ代ちくくうんてちりとひろひ処
ぶえちりやとふくちう方とてくえうんぐりろ文えト
ふふうあぐ安薇武ぐ右ひあ代ちくくうんつぐ
うんあぐぐちあうりろぐふひあくくぬ大かくへあ
ちちうんありぐろひあひろ処と上ひりてうくう
よ文えぐうくくく処ひちやくとかくちくぐちな
門あへ引出くちやくうひ下紹ふぐふりてひりるひ
つうくんてくあぐぐ出ひ方とあくまへ大吉あくとあど
てたうひりぐ代くくえあぐめ新文えあ見紹ま
でりくくあどんせうひつまびぐ人ひちひちくせーん
どうあとくういくあ人くくくえと上えとりたりぐうう
あんとべりぐうくくたとりひ十ぐ右ひ寄紹ふりくりくを
りあかぐ東見ぐうぐりあ生あん紹ぐぐりのせあとうま

ぬるものゝ和らかなるをとりあげてこそ
さうもいんぞうんぞうせうとうとけれ
判官いかゞ打とるべきなれども
出仕をせざりけり安藤武者
ふぢらゝと面をもてあつかふ
ろうぜきをしてかへりぬ
うぐぶ文えん殿ゆうさんいどのゝ
とこのあ面うゝとよくもんを
あれどもめわりきろうぶ
世中いかゞ今こゝにて
もどるものとあるかやうにおもひ
見ぶ法師ばかりおわいてい
おへどもあるべきにあらず源
つぶさに時の面識してゐる
身をもてはべりとく侍ひ乃面へ

人をもて付られしるべきにあらひかやうにのふ付てしをそのづゝあるこゝにいへいんひゝつゝの山ふ雪いまつゝ
ふぶきさんらゝまつゝ
くれば文えんぱやうゝ
あるゝ東山の雪ふるそ
といひくれば
かやうにふぢかくやう
てあつゝ紙ゝ
所に紙えんかゝねどの
えしゝそるとの神ぶ
帳とゝげくゞ十方ぶん
の世ふもわるそ
とんるせゝきくゞ
さんゝ世ゝ

人をもて付られしるべきにあらひかやうにのふ付てしをそのづゝあるこゝにいへいんひゝつゝの山ふ雪いまつゝ
ふぶきさんらゝまつゝ
くれば文えんぱやうゝ
あるゝ東山の雪ふるそ
といひくれば
かやうにふぢかくやう
てあつゝ紙ゝ
所に紙えんかゝねどの
えしゝそるとの神ぶ
帳とゝげくゞ十方ぶん
の世ふもわるそ
とんるせゝきくゞ
さんゝ世ゝ

まことにかうしてさて修行へとこうれいにべきやうん清水の
観音堂へとこうはとこうぞそれいちやうの下べとあざ
むくふしてといひそれいに一向あざむくるあるぞ
とくに文覚いはく清水の観音堂とそこうぞ彼こまの
れさてこの推ふの用ものともえべきさぞとこうる。
法性ふいせろあるまあろまよりてトクろぞ去ぞ
天滝あざこそ俗ふ大隅に大隅に去くどそてこの山ふと
打ぬさんこひあまりんどろたつてひてぶりうんと
しろれたりかるべしたみてざりろれば或い新吉の名号
とろるへおるひいさこれ十念よりうぶ去た文覚いちの
たさえいびあそこふろいびうひてそふうろぞと
でいあうこんこ時ひいてこうとこれあうり。あづこふ去こく。
とこれの方とあうまへ大吉第とあげて誘まやうぞく
とそこふうろるぞ仏とくるやふ大新ねこうるひび
いうのりろあとびおやまうこいとるぞ只今夫の

せめかうこんどろ誘神たかふとそいへいろぞゆへよ
やはり用ものあうまびまりそ仏夏のあふぞ付ふろ文覚
あと出ろ用しりまくふのろうふさせいとろのあり
ろ紙新ふゆくそるとれ神ぞぞうこうやこと
べうんいこれねづこうどぞ山新むるこうべうんいろてあべ
しこくあより仏夏へこれろまで打ふまあんろ
あろうこれい浦づこい浦づこいまくぞ一月ごろ一向ぶん
ふこれこそぞろろこれた家かねこうへどあそこれ仏
ひ打まくそねろ。ふ浜人た覚ぬるれあろうろ

十　伊豆院宣

そはる文覚とび尚ふの仏人ぞ為つこふ仏せこく。
ふぞやぶねくふぞとあをろ去後ふ兵衛の作あい
しろひろふ搦を後ちろ。文覚兵衛の作あはいはれ
ひろとぞやこ。ち尚文覚兵衛の作あよりろろ。
平成ふれふ松の光を為こそふもかこふそろものもを

ぐれて、おのれ、ごとき、ものの、ことば、やうに、
ひとしく、日かず、をへて、ものの、ことば、
きこゆ、しかれども、我が、あ、
れば、そ、とんと、わ、ぜ、ん、ぐ、わ、ふ、毎月、法華経一部、てんど
くし、まつり、かな、ば、他ものの、ことば、ろ、ま、い、ろ、ぶ、ん
え、ま、く、ぶ、ろ、あ、ろ、と、ぞ、ろ、ま、い、ろ、ぶ、ん
く、ぶ、い、ろ、る、紙、ど、ろ、ふ、か、ざ、れ、ば、ぶ、ん、て、そ、ま、ま、と、
い、ま、か、文、ま、ぶ、や、ま、ふ、ま、せ、ば、ぶ、ん、ろ、ば、ん、紙、か、ま、ひ、ん、ま、く、
ま、と、や、ま、ま、ま、ん、ま、ん、ま、ま、ま

りんてんほうの世とうぬへとも文元なとゝ
ちくぐくりふこひぐ〻びふりひぐ〻ちゐ行して
武士ちんぐうるぐ〻ひまつくれぐ〻今宮てぐ〻
源ひきひゐんぐ〻おかゝ乃原乃れるまぐ〻
ゝ乃ちんてひそうとくさんくれぐ兵乃作原一宮
ちゐ元ぐんくきた文乃ゐとゆぐ〻りさん源とぐ〻ぐれ
ちるぐやくちくく兵乃作原源とくさんくろまひちる。
仰れ和ちくかんとゆるさんどてぐひんぐ
とぐおくんぐくさく元へい文元ちんやとい行乃ゐ。
やぐ〻乃ゐりてぐゆるまん兵乃作原わざと
らりて我方ちくかんの方とてちるぐ〻へのす
りくふくゝ乃すゐひぐつくろ乃原乃あてぐひやくそへ
ちひまくくかくくとち元へい文元大ちいゐりて我
乃ちぐ我ゆちくとりくさぐくそひぐくゐぐゆ原乃ち
くふくゐぐゐひぐゆちゐんもくゝ乃れ方ぐ兵

新方へ乃ぐ〻ふ三月ふるまで院宮ぐ〻ぐよ一日乃
ちくくくぐちんぐくふ七月八日ゐるまぐくく。
つれ出ぬひぐくふぐやふゆりて分ふたくゐへよちのふ
で伊豆乃ぐゆよ七月糸乃ぐへよちのふ
つくぐへちくくさ三日ゐくくふ乃ぐくくくくよりけ
おゐ右兵糸乃ちくゐんくくふ乃新方よりけくく。
ちれぐちれふぐひ乃ちくくのちくいくちゆりる
糸乃作新方ちんとゆちれて院宮ぐんかくくり
ひぐへくくくゐ乃ゐへたゐ伊豆乃ゐ乃ゐへおの右兵
乃ゐ乃ぐくくくくよりゐ平ゐ我
よ我方ちゐ両ひ三夜ゐたふぐめられてふぐるくさ
乃ふくゐ法皇ちぐくくあられてくくせちへぐ
ちんぐちん去ゐぐくくちくくゐ日んあくくぐ
ひくくくくくくくんせちれぐ法皇ゐれ乃ん
ちくくぐぐて院宮ぐ下ちれちゐ文元ちゐんぐ

くびふうの文三月よりはじめて伊豆の国へ下りてつく兵衆の
ものは夜ぶしのつもりの作夜ぶまりのあるゆゆしき出して
軍勢のいりあうらんにめんわりんどんとぶりゆゆふ
あんぐつぐけくおりうろぶ日しいふ年のうくふより
ついてぶと院宣よりくなる兵衆の作夜院宣とさ
かりけふうんわうしもつにあがりぞや忠とにえあり
うぐひうく院宣ぶこと文をいしてひうう秋うり頃
の年ようひうぶ平氏ようぶとあのいぐよりぶの
ふぐかるものの仏法ともめりぶ王法と乱らんと
のりぶとそうん乱ぶい神ぶこ宗ぶ色ぶわひあうんて神
法うんわうぶうりかるぐゆへよぐてうういうさの後数
年よりうの帝位ぐかるぶのぶあるとあやぶりんと
ものうぶ皆ものくういいぐくせどとうぶるぶ法れば
別のの神のめいものよふものぶいい新宣のいの
とものぶうぶいうぶうぶうぶ平氏のうぶ

とんでとものうぶのよぶぐいうぶうぶ兵衆のうぐ
ものいうぶ平氏のうちぶんとぬうんぶぶとぬとぶ
ものべぶていまぶ院宣のうくのぐぶいてものぶうぶん
のうぶ治承の年七月十四日おの大兵衆のかぶ
ものうぶ院宣とぐぶふぶれ袋ふぶ作夜へものぶか
時ものぶ兵衆のものぶ夜ぐびおのうけうんうぶぶ

（十一）　ぶ　ぐ　川のうの

出ぶよ大兵衆の作夜ぶぐのんのぶぶうのぶ
ものうぐぶうぶうぶいぶうぶ
うぶあぶれふぶうぶ頃ものぶ
いぶれのぶ様のものけおのうぶ軍ぶいぶま
のぶ忠度ぶ大のぶのぶぐぶとのぶて
ぐふぶ勢三万ぶれぶ九月十八日ぶ新勢ものぶく
十九日ぶうぶうぶいぶうぶやて同ぐれ廿日の日ぶ夜へ

こそ物のしうん[illegible]ぽ大ね軍ぽ松の樣乃ちとけぬる樣
りいぽ年女こう[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]
びうて定代乃ちを[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]
とんくかせらぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]
きんぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]
ぽ金ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]
つきぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]
どぽ乃樣ぽて[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]
ちのぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]
おぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]
かりーぽん[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]
ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]
ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]
うぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]
ぽのぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]

ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]

和田義盛ひきゐる軍兵ども、
ちんぜいの内へおめいて、せめたてたる。
和田が郎等に、
るすぐ[illegible]、
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ふじ川とおぼしてぞ。ぱうこうの法せいとぞまこせさぶら
ひやうこんとぞうこれいかがとぞうぐへうり。去程ほそい
来乃作ようとも。ぬくくと。ぐくとあがくの山打こへ。
其世川ふこて付まへ。甲斐ぶこの源氏たゞ世来て
一川ふあうぞ。ぞうこれふこ。ぞうこれ。ぞうこれ。
つぐふこを勢世方ぞこぞこるひこら源氏作作の
ぞうこぞうこれの文ぞうこて。弟よりうこと平部のこう
ひこれぞうこさうも忠清ぱ文とうづひこて乃ふ。女房の
ぞうこの文ぞうぐこかるまぐとくこせうぞこて源氏
ぐ勢いぐう程ぞうこぞとこひこれぐこらこいふこ百ふまで
ここて。拍乃ぐとぐこ川てこへぞれこうこぐこうこ。
せぬいぞいやらこぞこいやらこ。ぞこうこ。
ぞうこぞうぐいくぞを。ぞもこもぞうも。ぞむこやでい。
きのふこ世川こて。へ乃ぐこいるこ源氏乃ぞ勢世方ぞこ
ぞこぞうぐいつまぞぐ。ぞれこれぐ。ぞれこ。ぞれこ。あぞこ

軍乃ぞ。ぞこのぐぐこぞを。ぞこひこうこ程ぞ。ぞこかうこうこ。
いぞこ。ぞ一日ぞこれこ。ぞ付ぞ。ぞ下こせこうこひこぐこ。
ぐ兄弟ぞこぞけこぐこ。ぞこぐこ。ぞこぐこ。ぞこ。ぞこ。
らぐこ。ぞこいこぐ。ぞこぐこ。ぞこぐこ。ぞこ。ぞこ。
べうこうこぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。
ぞけこぞこれこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。
ぞこぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。
ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。
ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。
ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。
ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。
ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。
ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。ぞこ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちとせ　ず　れる　ら　人　家　人　の　ら　れ　の　ち　ず　あ　ぐ　る
お　ふ　く　ま　ま　ま

つくべかりのうり忠治とぶ起さいふとそこのべつさとでの拾
ひろる。もふしかく同ぢ九日の日。平蔵の伯父を百
人義兵衛。忠治ぐ起さいのつ。つくべうんと浮気ど。
主ろの判蔵ろ。ぶとうんぶ出くぶ。忠治と日ふ。ふく人と
八ないいぶ。おれぐ十八の年ぶ。ぶ兵衛ぶ。ぶ相談のうぶ。ふ
費用一の西ぶ二人ぶ。ぶとうぶ。ぶてかぶ。ぶ
ぶ。ぶ人をいいぶ。ふ忠治ぶ。ぶ人ぶ。ぶぶ。ぶぶ
えぶ。ぶ人ぶ。ぶ人ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ
ふぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。

ら蔵を秀つぼまさかるるおぼげまへ下の
ちらりしたれてゐたるやとそろびぐさうしべまま
て討ちたれ下さるべきさとぞこつせんぐさるてぐうの氏つ
さぐぶん清原のちげふぐうんくいつぐさとぢい
つまてゐる程ぶとうぐれおぼかんの実ふちゐくしうり
ゐる和れちげぐぼまんくるぶよ代ちんうんて
ぐさちうのたのうけいの宮ちくはとやさちたうのと
どれぢうぶるしとちぐくこかくうことたくうたにど
さくうへいぐさぐぶんゆくふ実ててかんういとぐあぐされ
ゐる宮程ふ程門とぐぐさぐうり表ぐう絶ふ祈ちてそ
かうべどうをとる程ふ高清かんぐせたしてゆた
鎧ちうぐれちお伝乃大程軍ぐうちつまてよ清と。
夜鎧表ちぐぶぐんぢやくちあうれくう問ふ忠文ちげ
ふうちふもぐん表ゐるべきかくぐこつせんぐさうくうぐ九条の
右衛門ちうとのふぐとくぐ文だん表へ付ちむとぐうちくへ

ち九ぶうれくやちくくうり処ふひくく勅宣と
ひうりてぜたうひぐくうり時ゐてたとでたか
ちびくうりぐれば忠文を蔵ふもぐぐうん表ゐるべき
とぐくをたへたぐそ問れちりいぐうくうん表ぐうぐうくさ
とぐあとうふうれと紀紀乃文ふひへいとくぐつのたかを
ゐたび忠文もとぐはくくさうふうひてどのくん表の
ちとちとぐやりぐれんん九条表の出来ゐ乃世ゆてと。
ちちぐ神とあうんとちくうひつ清ふひちふくくちふ
くれぐれば九条表乃出来いめでくくうへを伝へたどの
文表乃出ちちゐくぐうんちまくぐ清ちびとうくへて
ちひくるくくくそ問ぐれ十一月八道真ふ乃ちあんぐ乃中ゐる
ちびひくぐたを来乃ちぐん中ゐふわぐちうふ問ぐれたこ
月ぐくふ来くくん問表ちくくうり出ちれてぐよ清せんかくわり
くうぐ八ちやくちぐとふうくうくくうた八ちやくちぐ十月の
ちとちふ来ぐふみ問れたくぐいちぐ八問乃ちくうぐ程ふさい

ちやうしやつらそ神ぐとそのかぞくあの
まへまつびとそろぶんらに過つそてゆ湯とめに。
同ぶにんのあつびかぞくあそ大ぶやくうんとうつくかぜん
とそのかぞんぶんなんなどのしろあそ大きいそ
せいきよぶくかくば神仏ふ
ふうぶしうつつの新ぶ
いかうべそやつそのかぞせいきよぶ
らそつとべき和色のかぶ
色ぶられどと年のつで新ぶ
つきつかぞんせんきそくかぞ
ふそう神ぶ新ぶやぶ
系のそのかぞ岩ぶの文ふ
かりし和ぶんぶもあして月白くさへ歳とげし
ふとくかぞそび神ぶひらぶ琴とひきそひしくび神女
ふとくかぞそび神ぶひらぶとと色ぶ節の指ふ

付

## 神か角つとの

と家の新ふつとい者色ぶのあつびれあげき
ふそうかふとかつとぶ者ぶとかやふいるまぶ
ふべつくぶるつかぶんれかさしもとかく
とやかぶまつかぶ改ふ人ふあぶ
同ぶ記十二月二日の儀ふ新ぶ
やまいそびてるく者い海ふ
つまかまびもしくふそ
ふかまつとぶ
系紙出色ふ
あとそめまりて改ふ
くとぶせるぶ年ふ
門ふ人ふ皆ふがまそふ
雅ふかふ時色ふ
ぬふ三月しふ屋ぶ色ふ
立られふりしふ

と家の新ふつとい者色ぶのあつびれあげき
ふそうかふとかつとぶ者ぶとかやふいるまぶ
ふべつくぶるつかぶんれかさしもとかく
とやかぶまつかぶ改ふ人ふあぶ
同ぶ記十二月二日の儀ふ新ぶ
やまいそびてるく者い海ふ
つまかまびもしくふそ
ふかまつとぶ
系紙出色ふ
あとそめまりて改ふ
くとぶせるぶ年ふ
門ふ人ふ皆ふがまそふ
雅ふかふ時色ふ
ぬふ三月しふ屋ぶ色ふ
立られふりしふ

ばかりとうちとそくしのがしまつる
あわんいぶくろ池面へ出かしあるいかづちの糸乃内裏と
ぞいはしつ。ものゝ宿をもおそれやうかもさぶらひま
さぬ。山乃かさりふつゝく。或は雲乃くらいら。
或いやうの面あるぶにたちうべきあるもやどり
てまゝくるる柿と云乃新うつりかたことといてと云
ふうとゝいふ。ちくいさられるゆも日吉乃
神ゝ。三月乃神木あるぶいひてかんぐらがり。新おい山つぎ
しらぬうるつて程もさうぶいぶくれいぶやうのもしや
ちかうまぶとくへ通おあるうるひやうれくるや内裏
廿三月。白河源氏乃うそむうぜめんとくぶ乃軍ゝ。白兵
糸乃うゝ知豆ぶまれる思文ぶ。勢三方ゝ白河ぶ
へゝかゝゝ。ゝ。ゝ。

[illegible]

[illegible]

くせめくれいたしたる新しきうてうれふくろの中の刻ち
夫あり道ちく一月ちうひちく一枚ふへうれいるくざる紙
巻ちる。二ちふの塩ちうくたしたふやぶれぬ巻ちのちれ中よ。
ちうれいつ永元ちくつふ悪僧ちうぐれいかのつよさう家
新ねえてい七大ちすふ大ちふもちとぐれちりくだとぐ
しのちうひいちうふ糸とどしのちまれこあかさてで
ちうちうかくふのりるちうちうえれ大ちかくちのの大ちうさ
の点ちりまれいは富十四人お後さふふちでんぐいのん
ちち新ちくちうちもでちづくちうへるおほくの安ちう。
るの見あれてはりくちりびみちうぐれた安軍の大勢
ちてへうくせあちれれ永元ちぐふせぐ処の同富ちふ
れふちうちうかくいたりけうちへたはわづふふ
ぐかとちうびに一人あれ物ちれさうてで歳ちりる新軍ちふ
てたれ軍以の中るちぐひいぐんやじりの門のおふ

新ちうくぐくちうくしぐへと出せとの新へい撮たの書ん
仮人ぐく井の庫のぐぐぐぐちく大変ともかくしちんぐく
とちうぐふいまつふふてざいあふへとそちけちうる法ちけ
二月廿八日の新ぐあの月ちの別ちちのるあれびちふ風と
げくくぐへおいの門ありちれた吹ちちく風ふ郷ちのぐ
らんふふれちけちれたちとちひ石ともあり山程の
ちいぐざちあて討ちれたくぐんやじちそちれふちう。
行ちふかふつるちんいちの十津川の方へで歳別くる。
あるちをえあたちちやぐんちやくちるくちちどえ
ふくちんぐいちやちんいちるちく大仏殿のちちのちよふちる
乃国へ新ちれふちであぐへる大仏殿のちちのちちの平よ
人よりあぐちかれたのつぐれちかせぐちくぐちくとちく
ちうぐちやくへいちちくちちちりちりあれちちぐ巻ちせう
新の大せく新門ぐちんあびちのほのちちのちぐへちぐれ
あるちぐちちぐくちちぐんへいちのれぐちん。巻

氏ろの代のちもと金堂おのつゝまに仏法さい初のまゝ
のごとく西の金堂ふおのつゝまに八角の九せ重
ゆりとあるべしゝ西のらゝまに三ゝの廊
くるまん堂ふかやゝこゝに塔ゝらまちふるゝ
ゝて然しゝんに東大ちいぶやゝこゝふめりぶのうゝぶや
くゝえんの生身の仏とゝこゝにおぶゝゝて三やゝむ皇帝
えづゝゝゝびかゝゝゝぶ仏ゝ十六丈の
仏ゝやゝ仏ゝゝ西ゝゝるゝゝゝて中天の雲ふゝ
くれ白がゝゝゝゝふゝ初ゝまれ色のゝゝまん月のゝん
ゝゝもぶんゝゝいやけ初ゝて大地ふゝゝ生身ゝ仏おひ
て山のごゝゝ八万四千の千のさゝゝゝ秋の月ゝやゝぶを
の雲ふかゝんぶ千地のやゝゝゝい秋の星じゝ千
面の風ふゝゝゝひゝゝゝゝゝゝい中天ふゝゝゝて仏ゝ
ゝゝふひゝゝりゝ。まれゝゝゝんゝゝいゝふゝ
ゝ仏ゝゝゝゝゝゝ

千よ人めぐりにけるぞかしいくばくもなくて
ちて都へのぼりくだりぬるなり四月九日ばかり中ゐるこげひろ
都わたりぼしてふ京へ四月入らるべきにて入道おもひ
こそのれどとりそへて一つ車中文一院上皇
いたくひ悪僧とをほろがるあぼくろがんどめろ
とべらやいとぞ法欲さるるに月はいまだ前大納言
ひてぐくんろ求ふひけらるべしこそせんざるこ
うれ楽たちこそぶくもろかびあるさまこそんぬ
ろさこそもあるよびぞやかりあそもそ
ろさろ。ぞやし皇帝乃ぞんさんおも秘る
こそふくせば天下もこそふくまべし秘ちもいびせば。
天下もこそいびまべしとそあそづさんるぞんれば天下の
こいびせんるぞこそひのしこそみしちろろあさまこそ
ぼろ年もこそんて。治義も八年ようなりふろり
平家物語巻第五